

小学校部会 第4分科会

主体的に学び、思考力・表現力を身に付けた児童の育成

～繋がりのある授業づくりと学び合いのある学習集団づくりを通して～

府中市立栗生小学校

1 はじめに

本校では、全国学力・学習状況調査と府中市一斉学力調査の結果から、算数科において表を正確に読み取ることや場面に応じて適切な資料やグラフを選択すること、学習内容の関連を捉えることに課題があった。また、職員での熟議においては、論理的思考力や、自分の考えを分かりやすく表現する力が、日常の授業における課題として挙げられた。これらを踏まえ、研究主題を設定している。なお、副題の「繋がり」の具体は、以下の4点である。

- (1) 単元のゴールと本時の繋がり（単元構成）
- (2) 児童同士の繋がり（言語能力の活用）
- (3) 学習内容の繋がり（系統を意識した教材研究）
- (4) 日常生活・他教科との繋がり（学びの汎用）

これに基づいて行った2本の実践について発表をする。

2 研究仮説

繋がりのある授業づくりや学び合いのある学習集団づくりを行うことにより、児童は主体的に学び、思考力・表現力を身に付けることができるであろう。

3 実践事例

- (1) 第6学年 「資料の調べ方」（令和6年1月実施）
- (2) 第6学年 「データの活用」（令和7年5月実施）

① 単元計画・ゴール問題

単元の最初に、ゴール問題（単元の終わりに児童がどのような問題を解けるようになったらいいかを考え、設定する問題）を解かせる。何を学べばよいか見通しをもたせ、学習に取り組ませる。単元最後に再度ゴール問題を解かせ、自身の変容・成長が実感できるようにする。

- ② 授業の実際・児童の意見
- ③ 事後協議・指導
- ④ 学年を越えた発展問題

4 成果と課題、今後の展望

- (1) 成果
 - ① 言語能力・情報活用能力の向上（児童アンケート）
 - ② 学習意欲の向上（ゴール問題・発展問題・振り返り）
- (2) 課題
 - ① 授業の発表会化（選択肢の多さによる）
 - ② 何を基に判断したのかの確認不足（「平均値」、「中央値」、「分布（散らばり）」、「最頻値」、「標本数」、…）
- (3) 今後の展望
 - ① ゴール問題、発展問題の精選
 - ② 教材研究による指導事項の精選

【参考文献】小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説算数編